

第 10 回 上川流域協議会 要旨

日時:平成 16 年 2 月 18 日(火) 18:30 ~ 21:00

場所:長野県諏訪合同庁舎 5 階 講堂

議 事 内 容

県の河川改修計画原案のうち、これまでに修正意見の多かった A 区間(河口～新六斗橋)について、会員及び漁協の意見を反映した事務局作成の改修試案について説明を受け、この区間の河川改修計画について議論。

決 定 事 項

- ・A 区間の改修計画案については、これまでに出示された 4 案(県の原案、会員作成案、今回試案 2 案)を基に、今回出された意見や漁協、専門家の意見等を取り入れて県が更に検討し河川改修計画を作成し、河川整備計画を提出するまでに再度協議会に示す。
- ・提言書の起草委員として座長が 7 名の会員を指名。次回協議会では起草委員会が作成した提言書(案)を基に、提言に関する議論を行う。
- ・起草委員会で提言案をまとめる時間を取るため、予定されていた 2 月 26 日の協議会は延期とし、次回日程は起草委員会で提言案作成の予定を立てた上で決定し会員に連絡する。

【配付資料】

- ・第 8 回上川流域協議会議事録要旨(案) 資料 - 1
- ・河川改修計画案説明図(計画 案及び計画 案) 資料 - 2

議 事

◆事務局からの A 区間改修試案説明(計画図を配布)

■(事務局)県の原案では A 区間は全掘削になっていたが、第 8 回協議会でワカサギの遡上や植生への影響が大きく、好ましくないとのご意見を受け、叩き台として流量を確保できる案を 2 案作成した。ワカサギへの影響については個別に漁協と打ち合わせし、ご意見を伺った。詳細についてはまだ今後詰めていく必要があることをご理解いただきたい。

計 画 案

- ・渋崎橋より下流で高水敷・低水路の幅を変更しない。
- ・ワカサギ採卵場の水深は現在の最深程度とする。
- ・渋崎橋より下流で河床勾配の逆勾配を解消する。

以上を基本方針とし、六斗橋下流右岸側で引堤 20m とを行うと共に、堤防嵩上げ・渋崎橋上流の低水路拡幅及び高水敷の上部掘削により流量を確保する。

この計画に伴い渋崎橋の撤去及び架け替え・六斗橋・新六斗橋の架け替えが必要となる。

計画 案

計画 案は六斗橋と新六斗橋の架け替えが必要となるので、この架け替えをしなくてよい案として計画案を作成した。

・河口において諏訪湖の常時満水位より2.5mまで河床掘削を行い、河床勾配を確保。
・高水敷(左岸は10m残存)は掘削するが、ワカサギの遡上についてはワカサギ水路を作って対応する。県の原案を基本とし、ワカサギ水路・左岸の必要最低幅を除く高水敷全掘削・堤防嵩上げ・六斗橋下流での引堤20mを組み合わせ、流量を確保している(ワカサギ水路幅・水深等についてはまだ検討が必要)。この案では六斗橋・新六斗橋の架け替えは不要となる。(県原案の基本方針である、既存橋梁への影響を最小限にする考えに沿っている)

◆質疑応答及び意見

■ 案のワカサギ魚道の幅10mは、水が全部ここに流入すると考えると狭いのではないかと感じるが、倍ぐらいの幅は必要なのでは。

▶(事務局)

ワカサギ水路がどれほどの流速・水深が良いのかまだ分からない。現在はとりあえず流量10m³/sとして考えている。またご意見を伺う中で決定したい。

▶(諏訪湖漁協)

水路の幅は25m程度、水深は諏訪湖の常時満水位0.85mの時1m30~40cm必要なのではないか。またこれは洪崎橋の下まで下げていただいて構わない。せいぜい20mぐらいで川先までは必要ないと考えている。

■ 魚道に導水する河川横断構造物はどんな形になるのか？

▶(事務局) 現段階では一切決めていない。

■ 六斗橋から下引堤ということだが、六斗橋まであの幅で流れてくる水が、それより下流で新たに川が流れ込んでいる訳ではないのに、洪崎橋付近では何故こんなに幅が必要になるのか。また、こういう引堤を提起した場合、工事年度としてどの辺りを考えているのか。

▶(事務局)

湖に流入したり、幅が広くなったり狭くなったりする川は、前後の断面によって水面に影響を受ける。同じ断面でも上下流の断面によって流下能力が変わって来るため、普通の水路のような単一断面と同じ方法では計算できない。引堤幅20mと仮定した上で、その断面で流れるかどうか計算したものであり、例えば10mにした場合はどうかという計算はしていない。工事予定については、この案は叩き台の段階であるため、費用や予定のことは考えていない。

▶(諏訪建設事務所長)

上川大橋下流については低水路が比較的幅広く掘り下げられる。ところが採卵場付近は採卵の関係で低水路を広げられない。そのため上川大橋より川幅全体を広くしないと流れない。(平面図上で)P0.8断面については下流P0.3の断面がブレーキとなって流れないが、その上流については、

下流の流れがよくなることによって引っ張られるため、広げなくても良い。

引堤幅については 18mがいいのか 22mが良いのか等、トライアル計算はしていない。幾つものケースを計算することは煩雑性になり時間がかかるため、本日提示した案は引堤幅 20m と仮定して試算してみたもの。また計画 〇〇の場合で、同じ引堤幅 20mで比較してみる必要があった。

ワカサギ水路の 10mという幅は、採卵期の上川の流量から逆算して決めた。採卵のため河床は掘り下げられない。なるべく流量を確保するため、ワカサギ水路以外の断面は県原案に近い深さまで掘り下げている。このため、第 〇〇案では堤防嵩上げが小さくなると共に六斗橋・新六斗橋橋の架け替えは不要となっている。

■河口部の河床の逆勾配という問題については、常に維持管理としてやるべきものであり、元々維持管理をやっていないからこうなっているのではないかと。諏訪湖の河口に砂がたまっているのは事実。県の考えを伺いたい。

▶(諏訪建設事務所)

堆砂については、2年ほど前に、2年間に分けて河口部の堆砂を取り除く工事をやっている。現在手持ちの資料がなく、詳細については分からない。

▶ 案で右・左岸で高水敷を残す幅が違うのは何故か。

▶(事務局)

現在高水敷に道路がある箇所については、川ギリギリまで道路が来ているのは危険なので、余裕をみて 10m取っている。高水敷の残し方は左右岸で割り振りを変えることもできる。

■第 〇〇案で、産卵場より下流は、渇水時期にワカサギ水路の水を確保するために本流が乾いてしまうということはないか。

▶(事務局)諏訪湖の常時満水位までは水が来る。ただその部分の水の流れは無くなる。

■ワカサギが遡上する条件とはどのようなものか。

▶気温水温と流速が関係してくる。同じ流速でも水温が低いときは、5度より3度の方が遡上が少ないというデータはある。深さというより流速が効いてくる。また雨が降ったりして流速が早くなれば水温が変わって遡上が増えることもある。

▶単純に幅が 80mから 10mになると、現在の 1/8しか遡上しなくなるのではないかと。入口が見つからないワカサギが増えるのではないかと。成功している魚道は少ない。

▶何とも言えない。幅が狭くして影響があるかということなら、あまり狭くすると魚も驚く。10mではちょっと厳しい。現在の水路で幅だけ狭くなると流速が早くなってまた厳しい。幅 25m程度が良いと思う。

▶計画 〇〇案の図面で、例えばワカサギ水路をここで造らずに低水路を完全に掘削してしまうと流速が小さくなるが、そうした場合ワカサギは遡上しなくなってしまうのか。流速の小さくなった部分までが諏訪湖の一部のようになって、更に上流の流速のあるところから遡上するようになり、六斗橋や新六斗橋付近が新たな漁場になるという可能性はないか。

▶諏訪湖の中まで瀬が届かないと、諏訪湖の魚は川の手前で来ないため、遡上しなくなってしまうと思う。

▶非常に難しい問題だ。ここで結論づけるのではなく、もっと突っ込んで専門家も呼んで深く検討すべき。安易にこの場で決めるのではなく、もっと厳密な検討が必要だ。

▶島崎川でも採卵をしているが、そこではほとんど流速はない。渋崎(上川)と島崎川の漁獲量の比較資料はあるか。

▶過去のデータは分からないが、今年の場合でいうと渋崎で 30 数kg、島崎は数百グラムといったところ。

▶渋崎(上川)は採卵場所別公卵漁獲高割合で諏訪湖全体の 29.9%を占めている。(島崎川 10.3%)(第4回流域協議会現地調査資料より)。

◆A 区間改修案の取扱いについて

■2つの案が出ているが、実現可能なのは第 案。第 案について、あと具体的にどんな点を加えたり変更したら良いかを検討するのがよい。

■上川部会の資料に、上川に架かっている全ての橋の架設年度の資料があった。渋崎橋はかなり継ぎはぎの状態であり、架け替えが必要。六斗橋については当時主要な県道の橋だったため、架け替えが大変だとのことで見送った経緯があり、川と別に考えれば架け替えが必要だ。新六斗橋も 40 年ほど経っており、歩道橋も苦肉の策で架けたものだった。費用の問題はあるが、単純に橋の架け替えがあるから 案が良いということではなく、2案とも良い案だからもっと深い議論が必要だ。

計画では堤防の嵩上げも1m程度になるかと思うが、住民の理解が得られるかどうか。また引堤も、これで線が引かれると、かかる民地もある。もう少し総合して検討していけば良い案が出てくると思うので、もう少し起草委員会の中で県と調整しながら論議して、もっと良い案ができるのではないかと。

■第 案の方が現実的だとは思う。ただ通勤バイパスを残すためにこうした計画になったような印象を受ける。ゲートボール場がつぶれるのではないかと心配している人もいる。六斗橋から下は水仙を植えたりして景観を良くしようとしているが、六斗から新六斗橋はやっていない、今後そうしたことをやっていきたいという希望も出ている。できるだけ高水敷を残すよう、新しい起草委員会でもその辺を十分考慮して検討していただきたい。

■(座長)第 案のほうがやや評判が良いようだが、すぐに結論を出すのは難しい。よって、これまでに出た 4つの案を議論したという経過を付記し、土木部でこれを総合してよりよい案を出すようにという提言の形にしたかどうかと思うがどうか。

■もう少し揉んだ方がよいのではないか。会員からの提案を議論する際ワカサギの問題が浮上し、今回初めて2案が出てきた段階であり、もう少し検討した方が良い。

第 案には橋梁の架け替えという点で問題がある。県の財政状況からみれば、河川改修の金は基本的に河川改修に使うようにすべきだ。橋の架け替え予算等他の金でできるものは他の金でやってもらった方が良い。

第 案の方が常識的には良いと思う。

起草委員会で議論するのは本末転倒。本来の協議会の場でもっと議論すべきだ。

■基本高水の検証という問題も一方にあり、今後河川法の見直しという可能性もあり得る、第 案でも第 案でも、これだけ大きな工事が必要なのかということについては、将来も本当に必要かどうかは現時点では断定できない。この引堤が一番最初の工事と位置付けられてしまうと困る。引堤工事の事業をどのくらいの年次に位置付けるのか。

▶(事務局)

前回協議会で、まず1/50確率の断面を決めて河川整備計画を取った上で、どこから手を付けたら良いかというのは皆さんと相談しましょうという話をした。それは今も変わっていない。完成型の断面で工事をやっていくと効果が上がってこないため、工事の実施の段階で、どういう風にやっていくかご相談したい。

▶引堤が合庁までかかってくるのは避けるべきだ。

▶前回協議会で議論したとおり、引堤とか嵩上げとか大規模な計画として国に上げて、実際には全川の工事が一度にできるわけではないので、工事は広く薄く全川に渡ってやっていくということだ。最終的には引堤ということになるが、いずれにせよ当面暫定形で進むということを確認したはず。

■改修計画の中で、堤防の強度の問題が議論されていなかった。不十分な場所があれば検討して加えていただきたい。

■この計画でいくと、私の家は土手の下に入ってしまう。当初引堤があっても5m程度かと考えていた。先程花とかワカサギとかの話があったが、そのための引堤(犠牲)とは考えたくない。治水安全確保のための引堤というのなら理解できるが、安易に線を引けば良いというのではなく、犠牲になる人に心が通じるような計画であって欲しい。

■ワカサギや水仙のため家を引っ越すというのではなく、本当に治水ということを基本に据えて、その上でワカサギとか環境がある。河川環境のために流れる水が流れなくなるというようなことのないように。基本はどうやって水を流すかだ。

■今後のこの案の取り扱いについては土木部が再検討し、整備計画ができるときまでに再度出して欲しいという取り扱いでよいか。

▶(一同)異議なし。

◆提言書の取りまとめ及び今後の予定について

■(座長) 起草委員として7名の方をお願いしたい。これから早速打ち合わせて責任者を決めていただき、今後どのようなスケジュールで進めていったらよいか議論していただきたい。

■ここで議論をし尽くした後、それをまとめるのが起草委員会だと認識している。起草委員会は議論する場所ではなく、まとめる場所だ。次回この会議を開く場合には少なくとも3日ほど前に会員に資料を送付いただき、自宅で検討の時間があると効率的な議論ができる。そう考えると次回の協議会を26日とするのは日程的に厳しいのではないか。

▶砥川の申請が8月というような話も報道されている。8月ということならもっと先に延ばしても良いのではないか。

▶(諏訪建設事務所長)

県の議会の委員会答弁の中で8月までには申請を終えたいと言っている。諏訪圏域は長野圏域に較べて早めに出せるのではないかと考えている。6月でも5月でも、無理をしない範囲でできるだけ早く出したい。

▶次回の日程は起草委員会と座長とで決定していただければ良い。可能な限り事務局等で科学的な数字の点や字句の点、用語等をチェックしていただき、一度修正したものを提出していただきたい。

▶(座長) 予定していた2月26日の協議会は延期とし、起草委員会で今後の予定を詰めた上で後日改めて開催日時を連絡する。

- 以上 -